

# 検証と医学(同 実習を含む)

## Legal Medicine

コース責任者

法医学教授 向井 敏二

### 1. 学習目標

(1) 一般目標 (GIO)

医学・医療関連の法的諸問題を適切に処理するために必要な基礎的知識と態度を習得する。

(2) 行動目標 (SBOs)

- ①医学・医療における法的諸問題を列挙し概要を説明できる。
- ②各種損傷の特徴を挙げその成傷機序を述べるができる。
- ③各種薬毒物の中毒機序と身体所見を述べるができる。
- ④各種個人識別法の有用性と留意点を比較して説明できる。
- ⑤家庭内虐待の現状を把握し、医師として適切に処理できる。
- ⑥医療関連死の概念を理解し、医師として適切に対応できる。
- ⑦大規模災害の概要を把握し、医師として適切に対応できる。
- ⑧死の概念を理解し、死因と死因の種類を適切に選択できる。
- ⑨突然死の概念を理解し、各内因性急死の病態を説明できる。
- ⑩異状死体とは何かを理解し、適切な死体検案が実践できる。
- ⑪本邦の死因究明制度の概要と問題点について説明できる。
- ⑫各種事例の死亡診断書(死体検案書)を正しく作成できる。
- ⑬医事関連法律の主旨を正しく理解してこれを遵守できる。
- ⑭我が国の臓器移植医療の現状・問題点について説明できる。

### 2. 学習内容

検証とは「物事を実際に取り調べて証明する」または「ある命題の真偽を真実に照らして検査する」ことをいう。そして、臨床医による検証行為の繰り返しこそが発展した今日の医療の礎であることは言うまでもない。しかし全人的医療を遂行するためには、臨床面だけでなく患者を取り巻く全ての諸状況を検証対象として捉える姿勢が必要である。また、昨今では診断・治療に専念するあまり法的対応は後回しとなり、また自らの判断や文書発行が患者や死者に対しどのような影響をもたらすかを深く考慮せず、日々の診療が行われている現状も皆無ではない。そのため、民事・刑事事件に巻き込まれ、警察や裁判所から意見や証言を求められ、はじめて医師の判断の重さに気付かされることも少なくない。現実には、患者や死者にまつわる種々法的問題を最前線で扱うのは他でもない一般臨床医であることから、将来医師を目指す医学生は各種法的事案に対する問題意識と適切な判断力を身に付けておく必要がある。

本コースでは法医学の基礎知識を講義および実習により教育し、将来、臨床医として遭遇するであろう各種法的事案に対する判断・処理能力を養うことを目標としている。一般講義では、スライドやビデオ映写による実例供覧を多用することで講義内容の理解を深め、かつ実際の判断力を養うよう努めている。また、他大学の教授陣や弁護士等を招いた特別講義も取り入れ、多角的な見解にも触れさせている。

コースの総括として、薬毒物検査、血液型検査、法医病理、死亡診断書・死体検案書作成等の実習を体験させ、将来医師として適切な判断・処理を行うための準備教育を完結させる。

### 3. 成績評価

当科目における評価は下記のごとく行う。

- (1) 総括的評価：前・後期末に定期試験を実施する。

認知領域（知識・理解度）については前期・後期定期試験での客観試験（多肢選択方式）と論述試験により評価する。実習についてはレポート提出と後期定期試験により評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	2	97(%)	前期・後期定期試験期間中に実施する。
実習レポート	3	3(%)	後期定期試験に加算する。

- (2) 形成的評価：当コースでは講義・実習への出席と学習態度を重視しているため、特に欠席率の高い学生に対しては随時教育的指導を与える。なお、各定期試験成績が60点以上かつ講義欠席率が34%未満でも、欠席回数に応じた減点により60点未満となった学生に対しては、規定の再試験とは別に教育的指導（追加試験など）を課す。

- (3) 学年末成績は情意領域（出席状況と学習中態度）を評価して最終決定する。

### 4. 教科書・参考書

- (1) 教科書

『現代の法医学』 永野耐造編（金原出版）  
『NEW エッセンシャル法医学 第5版』 高取健彦他（医歯薬出版）  
『学生のための法医学 第6版』 田中宣幸編（南山堂）  
『臨床法医学テキスト 第2版』 佐藤喜宣編（中外医学社）  
『標準法医学 第7版』 石津日出雄・高津光洋（医学書院）  
『NEW 法医学・医事法』 勝又義直・鈴木修編（南山堂）

- (2) 参考書

『輸血学改訂 第3版』 遠山博編（中外医学社）  
『薬毒物試験法と注解 2006』 日本薬学会編（南山堂）  
『急性中毒診療レジデントマニュアル 第2版』 上條吉人著 相馬一亥監修（医学書院）  
『交通事故と法医学』 IATSS Review 40 (1) 公益財団法人国際交通安全学会

<http://www.iatss.or.jp/publication/iatss-review/pdf/40-1.html>

## 5. 準備学習

各講義資料を学内 LAN にアップロードするので、事前に通読し、概要を把握しておくこと。

## 6. 教員に対する質問・相談手順

教員に対して学習上の質問・相談等を行う場合、事前に下記（電話または学内メール）に連絡してアポイントメントを得た上で、原則、各教員のオフィスアワー内に法医学教室を訪問すること。

所属	役職	氏名	オフィスアワー	場所	連絡先 ( mail address )
法医学	教授	向井 敏二	月～金曜日 ( 昼休み・放課後 )	医学部本館 5 階 法医学教室	内線 3556 ( tmukai )
法医学	准教授	呂 彩子	月・火・木・金曜日 ( 昼休み・放課後 )	同上	同上 ( chaeja )
法医学	特任 准教授	千葉 正悦	月～金曜日 ( 昼休み・放課後 )	同上	同上 ( chiba )

注：メールアドレスは@marianna-u.ac.jp を省略